

「教育は人なり」

和洋国府台女子中学校 一年 今井 しずく

私は、小学校の先生になりたいと思っています。きっかけは、小学校の担任の先生に、「気配りができてえらいですね。優しいし、小学校の先生に向いていますね。」と言われたことです。もともと幼い子の面倒を見ることも好きだったので、その言葉が後押しとなり、将来の目標ができました。

小学校の先生を目指す上で、どのような心構えが大切なのでしょうか。

皆さんは「教育は人なり」という言葉を知っていますか。これは論語に出てくる言葉です。意味としては、「人間として正しく信頼できる人の話は強く言わなくても聞かぬが、人として信頼できない人の話は強く言っても命令しても誰も聞かない」ということだそうです。その言葉は先生を目指す人にとって、とても大切なことが含まれているなと私は感じました。将来、私が小学校の先生になれたとしたら、生徒から信頼される「先生」になりたいです。

目標とする言葉を見つけた反面、今の小学校の先生が直面している問題についても知ることとなりました。それは、教員不足、多忙化、重労働、ストレスなどです。これらの問題はもう何年も解決されていません。はたしてこのままでいいのでしょうか。

私は、今のままでは良くないと考えています。では、どのようにしたらこの問題を解決できるのでしょうか。まずは多忙化の解決について考えていきます。小学校の先生の仕事の多くを占めるものは、担任としての業務です。一つの学級の担当となり、すべての教科を教えます。また、生活面の指導も行います。学級活動や休み時間などを利用し、児童に行動規範やクラス等での規律を守ることを教えたり、屋内、屋外での活動を監督することもあります。学習面や生活面の指導をし、さらに、子どもたち一人一人に対する理解を深めることも必要不可欠です。しかしこれらをすべて完璧に行うことは至難の業です。このようなことが続くと、多忙感を抱き、ストレスを感じる機会が増えていきます。

そしてそれは、教員としての気持ち、情熱の低下にも繋がります。この問題を解決するためには、二つの方法が考えられます。一つ目は保護者や、地域の人々の理解を得ながら市町村教育委員会と学校とが共に協力し合い環境を整備していくことです。

教育の原点である「教育は人なり」を念頭に、豊かな人間性、社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめとした対人関係能力、コミュニケーション能力などの優れた能力を備えられるような人材を育てることも大切です。

二つ目は、より専門性に秀でた教員を養成することです。

先生は帰りがおそい、残業しても給料は上がらない、子どもの後ろには保護者の目が光っている…。みなさんの先生に対するイメージとしてはこちらの印象が強いのではないのでしょうか。私も「大人になったら小学校の先生になる」と友達に話したときに、その友達から「やめた方がよいよ」と言われたことがありました。そのようなことがあっても私は、「先生になりたい。」と思っています。なぜなら、子どもの成長をリアルタイムで見られたり、笑顔にいやされたり、新しい視点に驚いたり、先生だからこそ経験できる何にも代え難いことも沢山あるからです。私は、「教育は人なり」という目標を大切に子どもたちへの理解を深められるよう、これからも学び続けます。

また今後、この言葉を同じ夢をもつ人にも伝えていきたいです。将来私が小学校の先生になれたとしたら保護者と協力して子どもたちの成長を支援し、先生の働き方についても改善していきます。立ち止まってしまうくらい迷うことがあったとしても「教育は人なり」を心に、子どもたちや先生たちがかかえる問題を解決してゆき、よりよい合いながら歩んでいきたいです。